

青嶺 Seirei

文責 田中泰司

伊万里市立青嶺中学校

青嶺中全員の「じーじに」

感動の第二六回卒業証書授与式

卒業生三十四名が巣立っていった卒業式から数日が経ち、全員に卒業証書を手渡すことができました。

在校生や教職員はもちろん、保護者や来賓の皆さんも含め、青嶺中学校に関わる全ての人たちが、卒業を祝い、気持ちよく送り出す式になりました。

当日の在校生たちの先輩を気持ちよく送り出したいという思いは、送辞や歌に強く込められており、その素晴らしい歌声は、卒業生はもちろん、参加者の胸を打ち、涙を誘いました。

精一杯の心づくしで取り組み、細やかに準備された式でしたが、その思いを受け止めた卒業生たちは、精一杯の気持ちと態度で返してくれました。青嶺中学校に関わる全員の心が一つになった厳粛でいて、あたたかな思いに溢れた式でした。

青嶺中学校での三度目の卒業式ですが、毎回感じるのはこれこそ「学校の原点」だということです。

人の思いを結集すればこんなに素晴らしく感動的な、一生心に残る時間が共有できる。相手のことを思いやり、自分ができることを一生懸命にやる姿は本当に美しいし、その姿勢が多くの人々の心を打つ。青嶺中学校が、そして参加したすべての人の心が一つになった、本当に素晴らしい卒業式でした。

以前通信で、紹介した内容もありますが、式辞の言葉の一部を載せます。

「良い大人、素敵な大人になるために最も大切なことは、その時々やるべきこと、その時々にはかぎらないことを逃げないで、やり続けることです。うまく

いけば喜びを、そうでなければ悔しさを味わうでしょう。そのどちらの感情も等しく大切に受け取り、次の一歩へつなげていく。その経験の積み重ねこそが、皆さんを確かな成長へと導くのです。」

「学ぶことの意味についても、改めてふれておきます。数学を学べば世界が数量として見え、理科を学べば現象の仕組みが見え、社会を学べば自分の立っている場所の広がりが見えます。国語、英語は対話を深く豊かにする言葉の力を磨き、他者とながら道具になります。学びは「ただの水」を「意味のある世界」へと変える力です。無関係だと思った知識を二つ結びと線になる。三つあると面に、四つあると立体になります。最初はいつ役立つかわからない

かもしれませんが、学んだそれぞれの知識が後で結びついて役に立つようになるのです。学んだことを実行に移し、昨日の自分より少し前へ進む。その小さな前進の連続が、必ず皆さんの未来を大きく拓きます。」

「対話を忘れた世界は、自分と違う他者を排除し、対立と争いだけが残されます。そして最後には戦争への道を進んでいくのです。地球半周分しか離れていないウクライナとロシアの戦争は5年目に入り、いまだ止むことがなく、またイランを巡る戦いも始まりました。今、この瞬間にも戦闘が行われているのです。どうか、他者との「対話」を諦めず

に続けてください。人と人が本当に理解し合うのはとても難しいことです。まして様々な背景や価値観を持った多くの人々と信頼を築き、共に生きていくのは本当に大変なことなのです。だからこそ排除ではなく、「違うこと」を尊重し、価値観や文化を認め、受け入れることを通して、平和で自分らしく生きていける安心感のある優しい世界を実現してください。」

これは卒業生ばかりではなく在校生の皆さんに向けてのメッセージでもあります。

・未来へ向けて対話を諦めず、「優しい世界」を目指そう。
・雲の上には変わらぬ太陽があることを忘れず、希望を持ち続けよう。
・自分がいちばん求めているものに出会い、手にするまでドアをたたき続けよう。

これから先の輝ける未来に向けて、また全員で新しい青嶺中学校を創っていきましょう。

Mr.リーとの思い出①

ワーキングホリデーで行ったオーストラリア滞在での前半のハイライトが、学校に通ったことでした。語学学校A CLはストラスフィールド郊外にあり、そこでは様々な国籍の人たちとの出会いがありました。私のクラスは真ん中

の中級で、日本、韓国、台湾、イタリア、インドネシア、タイと6か国のクラスメートがいました。ソウル出身の現代っ子のチェ・チヨン君と気が合い、一か月滞在した居心地のよかったホームステイ先を離れ、二人暮らしを始めたのでした（以前の通信参照）。

韓国からの留学生で一番年上だったのがMr.リーです。広東語と北京語を話せるので、台湾の二人とはすぐ打ち解け、英語の力も高くクラスのリーダー格でした。誰とでも分け隔てなく接する彼が、私たち日本人とはほとんど関わりをもちませんでした。冷たい視線

が送られ、あまり好かれてはいない、もつと言えば嫌われていることが伝わってきます。そんな彼に少し苦手意識を持ちながら毎日の授業に参加していました。

もう一人の韓国人、陽気なブサン出身ジェイエルはチョンと仲が良く、よく私たちのフラット（アパート）に遊びに来ていました。そのうち皆が集まるようになり、ある時Mr.リーも参加して、初めてきちんと話しました。（続く）

校長室より

吹く風は冷たく朝はまだ寒いです。すが、日の出の時刻は早く、日が差す時間も長くなりました。もうすぐそこまで春が来ています。生徒たちも心身ともグングン成長しており頼もしい限りです。